

# MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第23号 2010年7月

## もくじ

巻頭言・COP15 気候変動を考える	宇野 哲夫
神田川水質調査	倉光 康夫
武蔵野市の地域エコフェスティバルに参加	糸井 守
新人紹介	堤 恵美子・本村 賢一・渡邊 正春
町田市環境施策について	町田市環境総務課 課長補佐 水越 祐介



神田川の風景 (左) 鮭の通る道 (右) 高戸橋付近  
(撮影 糸井 守)

## 巻頭言

### COP15 気候変動を考える

宇野 哲夫

昨年12月のCOP15気候変動(スウェーデン)は今迄のCOPの中で最もジャーナリズムを賑わせた会議だったようだ。特に月刊誌では1月号から6月号まで方々でその評論が掲載されたが、肝心な議論が欠けていた。本文ではそれについて述べたい。

気候変動や温暖化問題ではCO<sub>2</sub>削減をどうするかが問題だが、評価は大きく2つに分かれる。

1つは「CO<sub>2</sub>排出量を25%削減すると国際的に宣言してしまった為に、1億人以上の日本国民が今後11年にわたって苦しむことになる」。他の1つは「温暖化対策がもたらす経済体質の強化というメリットに欧米先進国は気が付いており、既に具体的に政策を進めている。そこには25%以上のCO<sub>2</sub>削減目標が共通認識になっている」。日本にとって最大の問題は

- ①何故日本だけが「25%削減」なんて言ってしまったのか。
- ②京都議定書の為に日本の電力業界は2008年度に1000億円も支払う破目になってしまった。

の筈だが、そういう事態が発生する日本人の資質が何処にも述べられていない。国として今後どうすればいいのか確固たる結論が見当たらないのだ。

結論を先に言うと、「外国と交渉する」という概念を日本人は持っていない。先進諸外国は利害がぶつかり合う国際会議では「自国の利益を守る」という原則を最優先し、国内政策と対外政策との論理をしっかりと分けている。これは環境問題のみならず他の分野にも同じ話がある。世界の常識では歴史学には3つ有るとする。1つ目は社会科学上の歴史学、2つ目は国民教育上の歴史学、3つ目は外交上の歴史学。日本には1つ目しかない。3つ目は「この島は我が国の領土であることを何が何でも主張するための歴史上の根拠」だ。それがどんな屁理屈であってもその島を獲得すれば国民は納得するのだ。

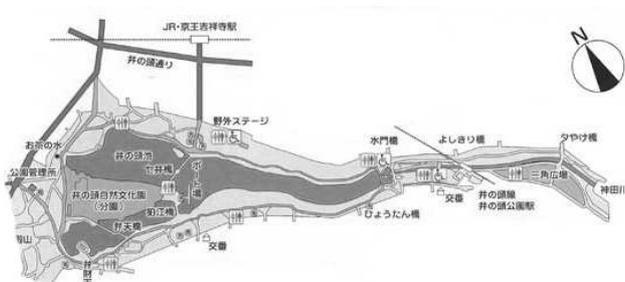
この様な話は元来、環境カウンセラーの範疇から外れるかも知れないが、これを考えるべき立場の人達が考えないなら、気が付いた者が大いに主張すべきであろう。グローバル化する環境問題では、今後ますます重要となる議論ではないだろうか。

# 神田川水質調査

倉光 康夫

国土交通省及び河川環境管理財団と連携し、地元河川の水質を年1回、全国一斉に調査し、全国水質マップを作成しています。今年度の調査は平成22年6月6日（土）に全国約1000の市民団体が6500箇所、実施しました。

神田川ネット（武蔵野・多摩カウンセラー協議会後援）として、糸井理事長、前田研二郎さんと井の頭公園の神田川源水（御茶ノ水）から井の頭線三鷹台駅付近までの5箇所を担当しました。今回は水質調査と並行して、魚や水底の小動物も観察しました。



井の頭池では今年外来魚であるブルーギルやブラックバスの生息数が外観上非常に少ないように感じられました。これは駆除の成果か、あるいは水温の関係で発育不良なのか、今後の調査が待たれます。上流の水底にはトンボの幼虫であるヤゴ、ザリガニの子、赤虫、ミズムシなどが観察され、水辺には糸トンボ、ギンヤンマ、モノサシトンボ、コシアキトンボ等が飛んでいました。下流では大きなフナや鯉が多数泳いでいました。



また、井の頭公園流出口付近から約200m位までの親水公園化された場所では、小さな子供たちが川に入って嬉々として水遊びやザリガニ取りをしているとなりで、鴨のつがいがのんびりと泳いでいる姿が印象的でした。この付近の水質（COD）は昨年と比較して若干水質が悪くなっていましたが、他は昨年と同じ値でした。また水温は源水（地下水）以外は0.5℃低くなっていました。

この調査を通じて、水環境に少しでも関心のある人が増え、たのしい水辺になるよう願っています。なお、測定値の詳細は後日次のホームページに掲載されるので、ご覧ください。

(<http://www.japan-mizumap.org>)



調査にあたる前田氏と倉光氏

## 新会員紹介<堤恵美子さん>



はじめまして！5月から会員になりました堤恵美子です。私はこれまで、建設系の産業廃棄物処理業で働いてきた経験から、不法投棄・不適正処理の80%は建設系廃棄物であり、環境汚染の最たるものという評価

は当たっていると実感しています。

ここには問題が2つあり、一つは、建設資材の多くは廃棄されてもリサイクル可能で、本来は物質循環の優等生になって然るべきであるのに資源として使いきれていない点。二つには、環境負荷防止を徹底したうえで処分すべき物質の適正処理ができていない点があげられます。私は、こうした問題を排出事業者や関係者の方々に伝え解決に繋げていきたいと思ひます。ご指導のほど、どうぞよろしくお願ひします！

# 武蔵野市の地域エコフェスティバルに参加

糸井 守

武蔵野市の地域核づくり拠点の一つである吉祥寺南町コミュニティセンター主催のエコフェスティバルに参加しました。2つのパネル展示と2つの活動実践は、5月27日から4日間の会期中に市長をはじめ、多くの市議、近隣住民・行政職員など、千数百人の来場者（展示会場）を迎えました。具体的な事業は以下の通りです。

## 1. 「我が家の環境大臣」(エコスターズ) 活動成果報告のパネル展示 (泉浩二氏 作成)

MECC会員有志の省エネ活動によるCO<sub>2</sub>削減成果を図表・グラフ化したパネル展示。市民実践グループや個人実践者の比較情報として、またこれから始めようとする人へのガイドになりました。



展示と、作成した泉浩二氏

## 2. 「井の頭池の外来魚調査」活動成果報告のパネル展示 (澄川沃氏 作成)

既存水生生物の生態系を保全・育成していくために、ブラックバス、ブルーギルの捕獲調査の成果状況のパネル展示。年間を通じた網による捕獲で、10数万匹の外来魚捕獲があり、それによって、ブラックバス、ブルーギルがエサとするモツゴやエビなどの既存水生生物が保全されることとなります。

## 3. 幻の川「松庵川」水辺再生シンポジウムの開催

武蔵野市内に水源のあった「松庵川」の存在がわかり、水と緑の空間作りへ向けての“水辺づくり”シンポジウムを開催。昔の川のルートや意義・役割等について活発な論議があり、継続して検討していくことになりました。

## 4. 神田川での親子ザリガニ釣り

竹ざおにたこ糸を結び、先端にスルメイカを取り付けただけの簡単な仕掛けでザリガニを釣ります。エサを投入してしばらく待っていると、カニが餌をくわえて引っ張るので、それを大人と子どもが一緒になって釣り上げます。みな夢中になって、またやりたいという声もたくさんありました。次回は夏休みの終わり頃に宿題対策として実施する予定です。

## 新 会 員 紹 介 < 本 村 賢 一 さん >



■氏名と経歴： 本村賢一と言います。ブリヂストンで構造設計、製造、海外駐在、品質管理、物流と広範囲の仕事に携わって来ました。現在はブリヂストンの物流子会社で物流品質管理部長と輸送会社の監査役をやっています。

■MECCにお世話になるキッカケは2年前、環境講

習会に参加。皆様に活動の進め方のご指導を受け、去年、ブリヂストンの環境大賞を受賞し、今年も環境貢献賞を戴きました。これも、MECCの講師の皆様のご指導の賜物と思います。

■今までの活動は企業内の省エネ活動が中心で、環境カウンセラーといっても、視野が狭く、他の環境活動は良く判りませんので、先輩諸氏のご指導を受け環境活動の環を広げて行きたいと思っています。

■趣味は、旅行で最近では上海、奈良に行って来ました。園芸、歴史にも興味を持っています。必要にかられ、料理にも関心があり、イタリア料理は得意料理の一つです。

## 新 会 員 紹 介 < 渡 邊 正 春 さん >



今年4月に市民部門のカウンセラーになりました多摩市の渡邊正春です。専門は化学で、在職中は精密ろ過膜・限外ろ過膜・

逆浸透膜等の分離膜や活性炭・イオン交換樹脂等を用いた分離・精製用機器を開発して来ました。そんな関係から水資源問題、大気・水の浄化などから環境問題に関わる様になり、工業会においては、RoHSやREACH等、化学物質規制関連や飲料水質、環境配慮設計等に関わって来ました。宜しくご指導の程お願い致します。

## 町田市の環境施策について

町田市環境総務課 課長補佐 水越 祐介

環境問題はもはや待ったなしの状況であり、国、自治体、事業者、市民、それぞれに積極的な取り組みが求められています。中でも市民生活に身近な存在である地方自治体の役割が注目され、自治体が行う環境施策の推進には大きな期待がかかっているところです。

町田市は、2000年度に「町田市環境基本条例」を制定、これに基づき2002年度には「町田市環境マスタープラン」を策定し、環境施策の大きな推進力となってきました。

この「町田市環境マスタープラン」は計画期間が2011年度末で終了することから、今年度より新たな「マスタープラン」の策定に着手します。現市政のテーマである「町田の未来をつくる」を念頭に、①市民生活により直結した身近な事柄に焦点を当て、具体的な環境配慮行動の指針を示す。②取り組みやすく、結果が実感でき、誰もが町田市の未来像を思い描くことができるような計画を目指す。③地球温暖化防止対策の指針を示す。など町田市の今後の環境施策の基本となる計画としていく予定です。

また、この4月から完全施行された省エネ法、温対法、東京都環境確保条例に対しても、環境資源部と庁舎管理部門、営繕部門が一体となり、エネルギー使用量及びCO<sub>2</sub>の削減に積極的に取り組んでまいります。

併せて、ごみの総排出量の多くを占める生ごみやプラスチックごみについて、資源化の可能性や効率的、効果的な方法を、現在策定中の「一般廃棄物資源化基本計画」のなかで示していきたいと考えております。

さらに、地球温暖化対策として本年度と来年度の2カ年の計画で「電気自動車社会実験事業」を実施します。これは、現状において走行時にCO<sub>2</sub>を排出しない唯一の自動車である電気自動車を使い、市と市民による車の共同使用（カーシェアリング）を行うことで電気自動車の実用性を検証し、今後の温暖化対策への有用性を探るものです。

町田市は「環境先進都市」を目指し、今後も様々な環境施策に積極的に取り組んでまいりますので、ご助言、お力添えをよろしく願いいたします。

### ★ イベントお知らせ ★

#### ■ 市民環境講座「エコロジカル・フットプリント」

〆 日時：9月9日（木） 13:30～15:30

〆 場所：武蔵野市クリーンセンター3階（武蔵野市役所向かい） 参加無料

〆 講師：泉 浩二氏（MECC 理事） 〆 申込先：MECC事務局 糸井 携帯：080-5488-1236

発行者：NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会（MECC）事務局

180-0003 武蔵野市吉祥寺南町3-31-16 糸井守

TEL：0422-45-0352 FAX：0422-45-0353

ホームページ：http://www.mecc.or.jp/

編集者：中西由美子